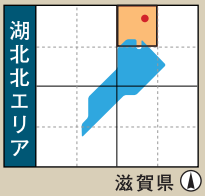
史跡
国指定

玄蕃尾城跡（げんばおじょうあと）

余呉町柳ヶ瀬　平成11年7月13日指定



柴田勝家と羽柴秀吉が、織田信長の後継を巡り戦った「賤ヶ岳の合戦」。この合戦は、両軍がたくさんの城を築いて戦った、日本史上でも類を見ない築城戦でした。玄蕃尾城は、柴田勝家の本陣として築城された城で、天正11年（1583）という限定された時期の城であり、中世の城から近世の城への過渡期の姿をよくとどめています。

当時のできごと	
1582年	本能寺の変
1584年	小牧長久手の戦い
1585年	秀吉　関白となる

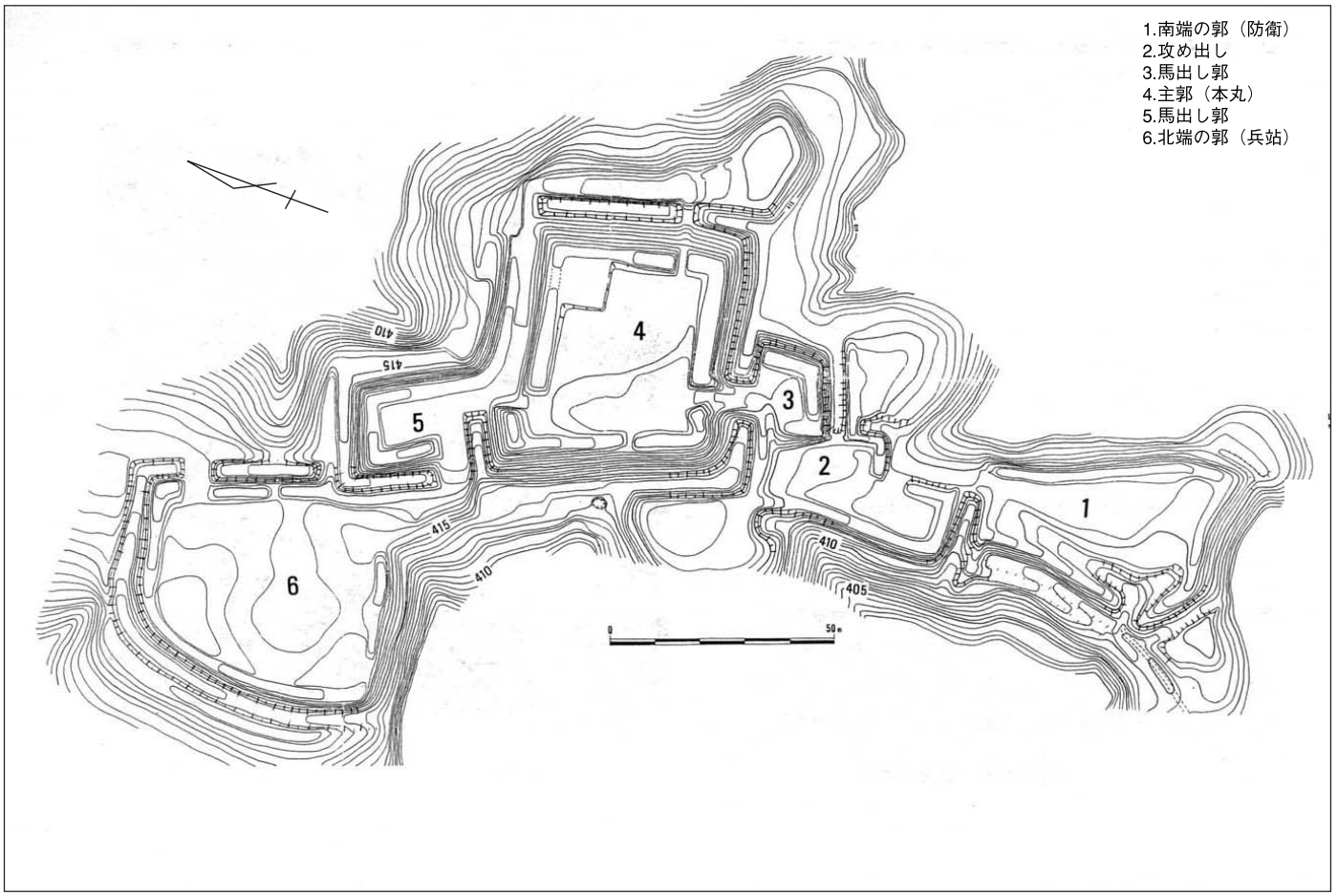
賤ヶ岳の合戦と玄蕃尾城

天正11年に若狭、近江の国境付近で繰り広げられた賤ヶ岳の合戦は、信長亡き後、羽柴秀吉の天下統一への道筋を決定付けた重要な戦いです。この戦いで秀吉軍は、幾重もの防衛ラインを木之本、余呉湖付近に設けて北国街道を封鎖し、勝家軍の南進を防ごうとしました。これに対し、勝家軍は近江、若狭の国境にある山の稜線に砦や軍道を造り、琵琶湖北部へ進出しようとしました。

玄蕃尾城は、北国街道と若狭街道を見下ろす標高約430mの柳ヶ瀬山の山頂に築城された、勝家軍の本陣です。今も残る軍道をたどり南下すると、行市山砦、別所砦に至ることができます。

城の構造

城は、南北約300m、東西が約150mの範囲で、尾根上に築かれています。基本的に六つの郭（くるわ）を連ねた構造で、各郭は、高さ1m前後の土塁で囲まれ、さらに外側は幅5～7mの空堀で区切られて、土橋（どばし）で連結されています。本丸（4）は、40m×50mのほぼ方形の郭で、この北東隅には10m四方で高さ1mの高まりがあり、礎石が今も残っていることから、ここに櫓（やぐら）が建っていたと考えられます。主郭の北、東、西には細長い平坦部が巡り（武者走り）、賤ヶ岳方面を監視するための郭に繋がります。



玄蕃尾城遺構図（福井県敦賀市教育委員会提供を一部改変）

構造の特徴

この城の構造には、本丸を中心として南北で構造の違いが見られます。まず、秀吉軍に面した南側は、本丸の入り口を敵の侵入を防ぐため、わざと折り曲げ（食い違い虎口）、さらにその南には、馬出し郭、攻め出しを連ねます。そして一番南には防衛のための郭を設けるという、攻撃、防衛を強く意識した構造になっています。これに対して本丸の北側は、馬出しを介して、城内で一番広い郭を配しますが、この郭には防御のための複雑な施設は見られません。勝家の本拠地に面する郭ですから、軍事物資を運び込んだり、兵を駐屯させるための郭と考えられます。

方形の郭を連ね、要所を虎口で固めるこの城の構造は、戦国期の単純な縄張りの城から、複雑な縄張りの近世城郭への過渡期の姿を示すものであり、城郭の研究上極めて重要です。



馬出し郭南東側



北端の郭（兵站）北側



攻め出し

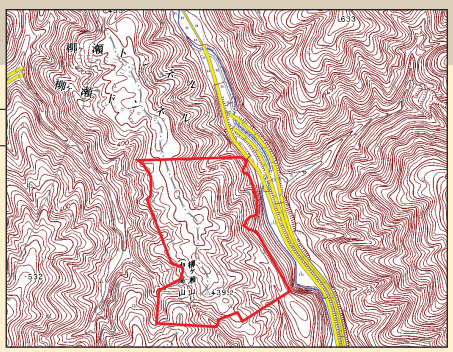
関連する文化財

賤ヶ岳合戦関連城郭群 （木之本町・余呉町・敦賀市）	日本史上特筆すべき築城戦であった、賤ヶ岳合戦を構成する城郭群
北ノ庄城跡 （福井県福井市）	柴田勝家の本城。福井城に継承される

もっと深く知りたい

安土城考古博物館	☎0748-46-2424　蒲生郡安土町下豊浦6678
余呉町教育委員会	☎0749-86-3221　伊香郡余呉町中之郷958

玄蕃尾城跡へのアクセス　北陸自動車道　木之本インター



【参考文献】〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月